

## 教育委員会からのお知らせ

### ★追加講座の参加を募集します！★

お子さん連れも可です。託児はありませんのでご了承ください。

申込受付開始：12月20日(月) 午前9時～ 土・日・祝日(12/28～1/3) 受付不可  
 ※申込みは先着順とし、定員になり次第締め切ります。電話予約も受け付けます。

講座名	内容等	開催日時	開催場所	対象 定員 受講料	締切
ハルーンアート講座	ふうせんで動物などいろいろな形を作ります。 講師：藤森 由美子	水曜日 午前 2/2、9、16、23、 3/2(全5回)	文化センター 集会室	対象：一般 定員：30人 受講料：2,600円	1/20
ワンコインで作る おつまみ講座	夕食に手軽にできるもう一品を学びます。 講師：藤森 由美子	月曜日 夜間 2/7、14、21、 3/7(全4回)	文化センター 料理実習室	対象：一般 定員：20人 受講料：2,100円	1/20
おしゃれ講座	簡単にできるブローや爪の手入れを学びます。 講師：石川 精子	金曜日 夜間 2/4、18、25、 3/4(全4回)	文化センター 講習室	対象：一般 定員：20人 受講料：1,000円	1/20
ヨガ体験講座	ヨガの基本を学びながら体をほぐします。 講師：笠原 真琴	火曜日 午前 2/1、8、15、22、 3/1(全5回)	文化センター 軽体育室	対象：一般 定員：20人 受講料：100円	1/25
伝統の味講座 うどん打ち	伝統の味を学びます。 講師：高木 美恵子	木曜日 午前 1/20	文化センター 料理実習室	対象：一般 定員各：20人 受講料：各550円 ※5回通して受講 の場合は2,600円	1/14
おやきづくり	講師：山田 澄子	1/27			1/20
恵方巻き	講師：山田 澄子	2/3			1/20
煮物	講師：小口 千恵子	2/10			1/31
桃の節句のちらし寿司	講師：小口 千恵子	2/17			1/31
袋もの作り講座	入園前に準備が必要な歯ブラシ袋・着替え袋や、買い物用マイバッグを作ります。 講師：細川 葉月	火曜日 午前 2/1、8、15、22 (全4回)	文化センター 集会室	対象：一般 定員：12人 受講料：100円 (材料代別途)	1/25
しもすわっこひろば ～楽しい歌とリズム遊び～	みんなでリトミックをして楽しく遊びましょう。 講師：浜 美恵子	水・木曜日 午前 2/2、10、16、24 3/2(全5回)	文化センター 軽体育室	対象：未就園児と親 定員：20組 受講料：200円	1/26
スイーツ講座	スイーツの基本から本格的なレシピを学びます。 講師：松下 ひとし	水曜日 午後 1/12、2/16、 3/16、23(全4回)	文化センター 料理実習室	対象：一般 定員：12人 受講料：4,100円	1/5
スクラップ ブック講座	お家にある写真を素敵にアレンジしましょう。 講師：河西 優子	金曜日 午前 2/4、18、25 3/4、11(全5回)	文化センター 講習室	対象：一般 定員：10人 受講料：2,100円	1/28

### ★氷上祭にご参加ください★

日 時：平成23年1月30日(日)  
 午前9：00～(悪天候の場合は中止)  
 場 所：ふれあい広場 秋宮スケートリンク  
 料 金：無料



フリースケーティング、氷上ボウリング、障害物競走、ソリ引きゲームなど、氷上の楽しいゲームがたくさん。大好評の下駄スケート体験会もぜひご参加ください。申込みは不要です。当日秋宮リンクへお来ください。(問い合わせ) 下諏訪体育館/☎27-1455

## 故郷下諏訪にもどって

東 赤 砂 篠 原 豊

結婚し横浜に住んでいる頃、帰省した折、子どもを砥川に連れて行った。喜々として遊ぶ様を見て、漠然と「こっちに戻ろうかな」と考えた。「そういえばまだ両親も六十代(当時)で元気にやっている。が、いずれ倒れることもあるだろうから：」これが、私がここ下諏訪に戻ってきた理由だ。

その後、二〇〇三年初夏に、長く住んでいた(思い返せば、下諏訪で過ごした時間より、離れていた時間の方が長くなって



いた) 横浜から下諏訪に戻ってきた。私にとっては、両親や親戚のいる土地ではあるが、妻にとつては見知らぬ地であり、しばらくの間様々な面で苦労をかけることになってしまった。思えば、私が下諏訪を離れ、都会生活というものを選んだのも、人づきあいの煩わしさから逃れたかったというのも、正直なところ一つの理由だった。一人暮らしは気楽であり、加えて都会には下諏訪にはない娯楽・自由が溢れている。人並みに給料を受け取るような年代になると、他人に何も干渉されず、ある一定の社会規範の中で趣味の音楽や映画を自由気ままに楽しむ生活は、それはそれは楽しい時間だった。そして、こちらに戻って七年

目の今年、十月十五日、父が他界した。脳内出血で突然倒れて五日目という急な出来事で、パソコンに向かっていて今日十月二十九日になっても、未だに実感が湧かない。そんなわけで、下諏訪に戻った理由の一つが現実のものになってしまった。改めて下諏訪での生活に戻って考えることは、人は他者との関わりがあつて生きていくのだということ。先日、大根掘りの行事に参加し、あるいは図書館でジャズを聴く機会を企画し、来場いただいた方々を前に話をすることで、そういった思いを強くした。「人間は社会的動物だ」(アリストテレス)とはよく言ったものだ。都会とは異なり、知らぬ人もあいさつを交わす。確かに冬の寒さは厳しいが、自然溢れる下諏訪で、しばらくは過ごしたいと思っている。往時に比べ、町並みも静かなものとなっているが、微力ながら、町が元気になるように日々過ごしていきたい。

## 1月6日の



冬期間、霧ヶ峰方面から美ヶ原までのビーナスラインは閉鎖されているが、八島ヶ原湿原の駐車場までは通行できる。厳冬のある朝、薄明の内にカメラをセットして、展望台から朝日をねらっていた。淡いダイヤモンドダストの中、太陽の右側に虹色の帯が縦に現れた。よく見ると左側にも。消滅するまでの数分間、自然が織りなす壮观を楽しむことができた。珍しい大気光学現象の「幻日」であろうが、よくわからない。さまざまに偶然が作用し合うことよって起こされる不思議な自然現象に遭遇すると、限りなく小さな存在である自分を痛感する。(古屋)